

創作市民劇公演事業

自治体情報 沖縄県宜野湾市

人口 / 92,467人 標準財政規模 / 15,876百万円

担当課 教育部 生涯学習課
電話番号 直通 098-893-3344
実施主体 宜野湾市教育委員会
関連ホームページ

事業期間 平成4年度から平成29年度まで
関係施策分類

予算関連データ

総事業費：7,354千円（H23）

名称	所管	金額(千円)
対米請求権助成金	(社) 沖縄県対米請求権事業協会	2,500
一般財源	—	4,854

施策のポイント

地域に密着し、地域興しに寄与できる劇として創作し、市内の各地域を輪番による区民総参加型で公演する。「イガルーシマ(オラガムラ)の出番だ。1度のチャンスだ」と自治会が全力を挙げて各種団体を網羅して一致団結して取組む。成果として地域の特色を再確認し地域への誇りや人との繋がりを強め、協働して地域活性化を図る。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

地域の貴重な歴史や伝承・伝統文化や文化財等を題材に戯曲化し、地域の特色を活かした創作市民劇を上演し、公演をとおして自ら住んでいる地域に関心と誇りを持ち、芸術文化の創造、地域興し及び人材育成につなげることを目的に開催する。

2. 取組の具体的内容

市内の対象区を順次に隔年公演をする（1年目脚本作成委託、2年目公演業務委託）。

対象区へは全面的に協力を求める。区の各種団体の長を中心に上演運営委員会を設置して運営する。前回と次回の自治会長は上演実行委員及び出演を体験し、区民総参加型の劇を継続する。出演者は公募とするが、対象区内は自治会長がまとめる。劇中及び前後に地域特色の芸能を区主体で披露する。沖縄芝居の重鎮が1名特別出演し指導をする。上演の成功にむけて、子どもからお年寄りまで自治会、郷友会、青年会、婦人会、老人会、子供会、学校等の各種団体を網羅して一致団結して取り組む。市内の他の自治会にも宣伝、チケット販売等の協力を求める。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

市内の戦前の14集落（旧字）毎に、地域の貴重な歴史、文化を踏まえた市民劇を創作し、ユイマールで隔年上演する（～H29年）。地域に密着した題材、人材、手法を用い、地域共同体作業としての「市民劇」に参画することで、地域に誇りを持ち、地域興しと活性化に寄与する。

4. 現在までの実績・成果

平成4年に第1回創作市民劇を開始し、20年間で第10回実施した。公演を通じて地域の財産ともいえる世代間の絆も育まれている。毎回100名～200名出演し、市民会館も立見客がでるほど盛況で大好評である。地域の文化・歴史を認識する機会となっている（劇を機に宜野湾区では60年ぶりに「綱引き」を復活させ、野嵩1区では「棒卷（ポーマチ）」を30年ぶり披露した。沖縄方言普及に繋がる。）。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

自治会の協力が必須となる。対象区へは4年前から、地域からの脚本家や演出家の人材さがしをはじめ、市民劇への協力要請と区各種団体の活動及び指導状況について情報交換を機会あるごとにしている。平成23年は今後予定の3自治会長へ改めて趣旨及び計画説明会を開催した。

6. 今後の課題と展開

市内の若手演出家を起用しやすい事業委託あり方を探す。市民劇関係者と市文化協会を仲介し人材活用する。H29年で一巡するが、1回公演のみで蓄積された脚本の活用と継続及び展開について文化振興事業、地域活性化事業の整理をしながら検討する。